



ミツケ隊のメンバー

ミツケ隊

学生

地域貢献事業

第19回

軽トラ市による地域の魅力発見事業に取り組み、「ミツケ」には三遠南信の「三」と軽トラの「ケ」を組み合わせ、地域の良いところを「みつきたい」という思いを込めた。2021年に豊橋駅前の「ま

ちなか広場」で軽トラ市を成功させ、その活動を引き継ぐ。22年の1月にも市を開催した。

軽トラ市は、軽トラの荷台を売り場に活用し、朝市を再現するもので、歩行者天国などでよく行われる。食べ物や雑貨、地域の産品などを売り、人気のイベントだ。対面販売で会話も楽しめる。その社会的効果が注目されている。

代表の大崎可奈子さんは「注目度の高い軽トラ市だが、豊橋市ではまだ定着したものがない。活動を通じて定着させることができればと考えている。『まちなか広場』は会場として可能性のある場所だと思う」と期待する。「近所の人や通りかかった人、水上ビルの店舗に来店した人など、さまざまな人に立ち寄ってもらえる。良い店舗をそろえればにぎわいが創出できるはず」。

22年1月の開催時には、年始早々だったこともあり、来場者が思ったように集まらず苦労したという。しかし、来た人には楽しんでもらったという手応えがあった。「次回は、周知



22年1月に行われた軽トラ市

も考え、チラシを配布したり、若い世代にはインスタグラムなどSNSも使って宣伝したりするなど工夫したい。足元から集客するためにポスティングも効果的だと思う。」定期的に開催される定着したイベントにしていくことが目標だ。

「軽トラ市なら、高齢者など遠くに行かない人でも地元のものや遠くの店舗のものが気軽に買える。食べ物だけでなく、整体などのサービスも提供も可能だ。地域の魅力を発見し、発信する場に育てたい。コロナ禍も落ち着きを見せ、いろいろな活動も活発になってきた。これからは楽しみ」。

視野を幅広く持つて、他の地域や団体とのコラボ企画もーとメンバーの夢は広がっていく。

※協力・愛知大学 (大林恭子)

軽トラ市で地域を「見つけ」